カンボジア農村部における小学生の食生活

白井睦子・高村一知

(安田女子大学家政学部管理栄養学科)

Food Intake among Elementary School Students in a Rural Area of Cambodia

Mutsuko Shirai, Kazunori Takamura

*Department of Nutritional Sciences, Yasuda Women's University, 6-13-1
Yasuhigashi, Asaminami-ku, Hiroshima, 731-0153, Japan*

〒731-0153 広島県広島市安佐南区安東 6-13-1

We investigated the food intake and physical condition among elementary school children in rural Cambodia during Feb–March 2006. Data were collected from 274 elementary school children (119 boys and 155 girls) aged 9–16 years. The following results were obtained:

- 1) With regard to the frequency of dietary intake a day, 61% of the students had “three meals”, but 39% of the students had “two meals”. 79% of the students had the largest amount of daily meals at lunch. The frequency of protein-rich food intake, such as meat and dairy products was low.
- 2) The proportion of underweight children with respect to the Rohrer Index was 80% of all boys and 71% of all girls. Also, the weight and height of both boys and girls in rural Cambodia were lower than those of Japanese children of the same age. Moreover, there were many children who had answered, “normal” in the question about consciousness of their physiques, though they were thin.

The present results show that the nutritional status of elementary school children in rural Cambodia is inadequate. In conclusion, as it is important that children obtain a good nutritional status for their growth, the study recommends a comprehensive strategy to be implemented in rural Cambodia in order to prevent children from the undernourishment.

緒 言

カンボジアでは1970年代から20年に渡って内戦が続き、多くの人命が失われた¹⁾。内戦終結後10年以上が経過した現在では、復興開発が進み、教育面ではようやく小学校などの公教育が正常化し始めている。しかし、働き手の子どもを学校に通わせない親もあり、就学率は約80%、小学6年を卒業できるのは48%と低い。

カンボジアの主要産業は農業であり、稲作がその中心である。都市部には大きな食糧市場がいくつもあり食材は豊富に揃っている。しかし、農村部における食料事情は都市部に比較して良くない。また経済面でも収入は低

く、食生活面でも1日に食事を3回食べるのが困難な家庭もある。そこで国連世界食糧計画(The United Nations World Food Programme:WFP)支援の学校給食が配給されている。学校給食は家庭内で十分な食事を受けることができない児童に栄養価の高い食事を提供するだけでなく、就学率と学習能力を高め、教育の機会を拡げることが目的としている。WFPの学校給食は週5回、朝食のみであり、メニューは児童の最低限の栄養摂取を目的としたニシンの缶詰スープと緑豆ご飯である。児童の身体の成長と知能の発育には、一定量のエネルギー摂取とバランスの取れた栄養摂取が重要課題であるが、給食だけでは充分とは言えない。また、WFPの学校給食

プログラムは3年間で終了予定である。

これまでもカンボジアの伝統的な食文化を紹介する文献^{2) 3)}はあるが、食生活状況に関する調査研究はほとんど報告されていない。そこで、カンボジア北西部の農村地帯にあるササースダム小学校の児童を対象に日常の食生活と健康状態を把握するためにアンケート調査と身体測定を行ったので報告する。

方 法

1. 調査時期および調査地域

調査は2006年2月～3月（乾季）にカンボジア北西部のシェムリアップ州プク郡のササースダムの農村地帯にあるササースダム小学校で行った（図1）。

2. 調査対象

調査対象者は4年生および6年生の小学生（9歳～16歳）274人（男子119人、女子155人）で、性別および年齢構成を表1に示した。

3. 食生活調査方法

食生活に関する調査項目は表2の通りで、アンケート

方式で行った。調査はクメール語による記述質問用紙を配布後、クラス担任教員の説明に従って回答を得た。

4. 身体測定

食生活アンケート調査を行った同じ時期の2006年2月～3月に、身体測定を行った。身長、体重の測定は4年生および6年生の小学生（9歳～16歳）265人（男子115人、女子150人）を対象に行った。このうち食生活アンケート調査と身体測定の両方を行ったのは254人（男子105人、女子149人）で、残りの11名（男子10名、女子1名）は欠席者である。測定した身長および体重から学童期の体格指標となるローレル指数＝（体重（kg）／身長（cm）³）×10⁷を算出し、体格の判定も行った。

結 果

1. 家族構成

家族構成についてのアンケート調査では、家族の人数は5～8人（72%）が多く、平均6.87人、兄弟姉妹の数も3～7人（81%）が多く、平均5.18人と日本の1世帯当たりの平均世帯員数2.68人（2005年国勢調査結果）に

図1 カンボジアと調査地域の地図

表1 調査対象小学生の性別および年齢

年齢	人 数		
	男 (%)	女 (%)	全体 (%)
9 歳	8 (2.9)	12 (4.4)	20 (7.3)
10歳	18 (6.6)	27 (10.0)	45 (16.6)
11歳	12 (4.4)	28 (10.2)	40 (14.6)
12歳	25 (9.1)	34 (12.4)	59 (21.5)
13歳	20 (7.3)	33 (12.0)	53 (19.3)
14歳	20 (7.3)	16 (5.8)	36 (13.1)
15歳	11 (4.0)	2 (0.7)	13 (4.7)
16歳	5 (1.8)	3 (1.1)	8 (2.9)
計	119 (43.4)	155 (56.6)	274 (100.0)

表2 食生活アンケート調査項目

食生活調査表	
1. 年齢: 才	昨日の活動について
2. 性別: 男・女	24. 昨日, よく眠れましたか?: はい・いいえ
3. 住んでいる村: プロチャ・ボンボロマイ・プンスワイ・ブンコクナー・プンササダム・プンブノウ・ブンコウロン・ブンコチャ・その他()	25. 昨日, 勉強をしましたか?: はい・いいえ
4. 同居している家族の人数: () 人	26. 昨日, 遊びましたか?: はい・いいえ
5. 同居している家族: 私・父・母・兄() 人・弟() 人・姉() 人・妹() 人・祖父・祖母・その他()	27. 昨日, 仕事をしましたか?: はい・いいえ
6. 学校まで何で来ますか? 徒歩・自転車・バイク・車・その他()	28. 昨日, 運動をしましたか?: はい・いいえ
7. 1日の食事は何食ですか? 1食以下・2食・3食以上	今の体調について
8. 1日の食事の量に満足していますか?: 満足している・普通・足りない	29. 食欲はありますか?: はい・いいえ
9. 1日の食事で一番量が多いのはいつですか? 朝食・昼食・間食・夕食・夜食	30. 今, あなたは下痢をしていますか?: はい・いいえ
10. 果物を食べますか?: 毎日食べる・ときどき食べる・食べない	31. 今, あなたは便秘をしていますか?: はい・いいえ
11. 野菜を食べますか?: 毎日食べる・ときどき食べる・食べない	32. 今, あなたは虫歯がありますか?: はい・いいえ
12. 魚を食べますか?: 毎日食べる・ときどき食べる・食べない	33. あなたは健康だと思いますか?: はい・いいえ
13. 肉を食べますか?: 毎日食べる・ときどき食べる・食べない	給食がある日について
14. 乳製品を食べますか?: 毎日食べる・ときどき食べる・食べない	34. 給食を食べますか?: 毎日食べる・時々食べる・食べない
15. あなたはお腹が痛くなることがありますか? いつも痛い・ときどき痛い・痛くない	35. 給食の量はどうか?: 多い・普通・少ない
16. あなたは頭痛がありますか?: いつも痛い・ときどき痛い・痛くない	36. 給食は美味しいですか?: 美味しい・普通・まずい
17. あなたは太っていると思いますか? やせていると思いますか?: 太っている・少し太っている・ふつう・少しやせている・やせている	37. 給食が好きですか?: 好き・普通・きらい
昨日の食事について	38. 給食の配給は必要だと思いますか?: 必要・必要ない・わからない
18. 昨日, 朝食を食べましたか?: はい・いいえ	給食がない日について
19. 昨日, 昼食をしましたか?: はい・いいえ	39. 朝食を食べますか?: 毎日食べる・時々食べる・食べない
20. 昨日, 夕方食事をしましたか?: はい・いいえ	40. どこで朝食を食べますか?: 家・マーケット・学校の売店・その他()
21. 昨日, 間食をしましたか?: はい・いいえ	41. 家の朝食の量はどうか?: 多い・普通・少ない
22. 昨日, 外食をしましたか?: はい・いいえ	42. 家の朝食の量は給食と比べてどうか?: 多い・同じ・少ない
23. 昨日, 食べたものは何ですか? ○をつけてください.: 肉・魚・卵・乳・昆虫・爬虫類(カエル・ヘビ・ワニ)・ご飯・パン・麺類・芋・豆類・野菜・果物・きのこ・海草・菓子・ジュース(炭酸)・ジュース(果汁)・茶・コーヒー・その他	43. 家の朝食は美味しいですか?: 美味しい・普通・まずい
	44. 家の朝食は給食と比べて美味しいですか?: 美味しい・普通・まずい
	45. 家の朝食と給食はどちらがよいですか?: 家の朝食・どちらでもいい・給食・わからない

表3 家族構成

家族の人数	人数	(%)	兄弟姉妹の人数	人数	(%)
2人	2	0.7	1人	2	0.7
3人	5	1.8	2人	16	5.8
4人	19	6.9	3人	45	16.4
5人	41	15.0	4人	53	19.3
6人	47	17.1	5人	50	18.2
7人	57	20.8	6人	44	16.1
8人	52	19.0	7人	31	11.3
9人	25	9.1	8人	11	4.0
10人	20	7.3	9人	7	2.6
11人	1	0.4	10人	8	3.0
12人	3	1.1	11人	3	1.1
13人	0	0	12人	0	0
14人	1	0.4	13人	3	1.1
無回答	1	0.4	無回答	1	0.4
計	274	100.0	計	274	100.0

図2 通学手段

比較して多かった(表3)。

2. 通学手段

“学校まで何で来ますか?”の設問に対して, 徒歩(64%)や自転車(35%)で通学する児童が多かった。また, バイクで通学する児童は0.4%と少なく, 車で通学する児童はいなかった(図2)。

3. 1日の食生活について

1日の食生活について調査した結果を図3に示した。

1. 1日の食事は何食ですか？

2. 1日の食事に満足していますか？

3. 1日の食事で一番量が多いのはいつですか？

図3 1日の食生活について

1日の食事回数は“3食以上”が61%と多く、“2食”が39%，“1食以下”は0%であった。1日の食事への満足度は“満足している”が49%，“普通”は48%，“足りない”は2%であった。また，1日の食事で一番摂取量が多いのは“昼食”で79%と多く，次に“夕食”が13%，“朝食”が7%であった。

4. 食品群別の摂取頻度と体調

食品群別の摂取頻度を図4-1に示した。野菜を食べる頻度は，“毎日”が49%，“時々”が47%であった。果物を食べる頻度は“毎日”が12%，“時々”が82%。魚を食べる頻度は“毎日”69%，“時々”30%。肉を食べる頻度は“毎日”12%，“時々”83%。また，乳製品を食べる頻度は“毎日”0%，“時々”81%であった。

体調（図4-2）について，“頭痛”と“腹痛”の頻度について調査したところ，“頭痛”は“いつも痛い”が7%，“時々痛い”が88%であった。“腹痛”は“いつも痛い”が4%，“時々痛い”が91%であった。

5. アンケート調査前日の食事と生活活動および調査当日の体調について

調査項目として“前日の食事”，“前日の食事の内容”，“前日の活動”，“アンケート調査当日の体調”の4項目について設問した（図5-1～4）。前日の食事摂取状況についての調査では，“昼食”93%と多く，ほとんどの児童が昼食を取っていた。その他は“朝食”79%，“間食”56%，“夕食”31%であった。前日に食べたものを食品群別に見ると，たんぱく質の“魚”が92%，炭水化物の“ご飯”が88%と多く，“野菜”68%，“菓子”60%であった。前日の生活活動については“運動をした”が14%，“仕事をした”が97%，“遊んだ”が88%，“勉強した”が95%，“よく眠れた”が95%であった。調査当日の体調については“健康だと思う”が60%，“虫歯がある”が57%，“便秘”が5%，“下痢”が13%，“食

図4-1 食品群別の摂取頻度 (%)

図4-2 体調について

図4 食品群別の摂食頻度と体調

欲がある”が93%であった。

6. WFP 支援の給食（朝食）について

WFP 支援の給食のメニューはニシンの缶詰スープ，緑豆混ぜご飯である（写真1）。給食1人分は米（100g），緑豆（40g），ニシンの大豆油缶詰（20g），塩（3g），パーム油（9g）でエネルギー計算されている。

給食（朝食）についてのアンケート調査結果を図6-1～7に示した。“給食（朝食）を食べますか？”の設問では，給食を摂取するかについて，“毎日食べる”が45%，“時々食べる”が52%，“食べない”が1%であった。給食がない日に朝食を摂取するかについて，“毎日食べる”が36%，“時々食べる”が59%，“食べない”が4%で，給食がない日は朝食を摂取しない児童が多かった。“給食または朝食の量”についての設問では，給食の量は“多い”5%，“普通”93%，“少ない”1%であった。給食がない日の朝食の量は“多い”9%，“普通”80%，“少ない”9%であった。“給食または朝食は美味しいですか？”の設問に対して給食は“美味しい”38%，“普通”61%，“まずい”1%であった。給食がない日の朝食は“美味しい”42%，“普通”55%，“まずい”3%であった。“給食がない日，どこで朝食を食べますか？”の設問に対して“家”が84%と多く，“学校の売店”10%，“市場”5%であった。“家の朝食は給食と比べてどうですか？”の設問に対して，量は“多い”30%，“同じ”70%，“少ない”0.7%。味は“美味しい”8%，“普通”86%，“まずい”6%であった。“給食が好きで

カンボジア農村部における小学生の食生活

図5 アンケート調査前日の食事と生活活動および調査当日の体調について

図6 給食と朝食について

写真1 WFP支援の給食

すか?”の設問に“好き”56%,”普通”43%,”嫌い”1%であった。“給食は必要だと思いますか?”の設問に“必要”86%,”必要ない”5%で給食を必要だと思っている児童が多かった。

7. 身体測定結果と体格

カンボジアの小学生の身体状況を把握するために、食生活調査を行った小学生を対象に身長と体重の測定を行った。その結果を表4に示した。日本人の体格と比較するために、表5に平成15年厚生労働省国民栄養調査結果より日本人の身長と体重を示した。年齢9～16歳のカンボジア人と日本人の男女別の身長と体重を各年齢別に比較したところ、どの年齢でも男女共にカンボジア人の身長は低く、体重も少なかった。調査したカンボジア人13歳男子の平均身長が139.2cm、平均体重が28.3kgであ

ったのに対して、同じ年齢の日本人男子の平均身長は159.3cm、平均体重は50.9kgで、身長差は20.1cm、体重差は22.6kgあった。カンボジア人13歳女子の平均身長が143.0cm、平均体重が32.1kgであったのに対して、同じ年齢の日本人女子の平均身長は155.2cm、平均体重は46.3kgで、身長差は12.2cm、体重差は14.2kgあった。特に女子より男子の方が日本人との体格の差は大きい傾向がみられた。

表6に身長と体重から算出したローレル指数(100以下:やせすぎ, 101～115:やせぎみ, 116～144:標準, 145～159:太りぎみ, 160以上:太りすぎ)と“自分の体格についての意識”についてのアンケート調査結果を示した。まず、ローレル指数から体格を検討してみると、男子の80%(84人/105人)、女子の71%(106人/149人)

表4 カンボジア人の身長と体重

年齢	人数	男				女				
		身長 (cm)		体重 (kg)		身長 (cm)		体重 (kg)		
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
9歳	7	126.6	4.3	22.1	2.5	12	127.3	7.3	24.8	6.7
10歳	17	132.9	8.9	26.7	5.5	25	130.3	7.6	24.3	4.5
11歳	11	131.5	1.6	24.6	2.2	28	132.7	5.9	26.0	4.8
12歳	24	138.1	7.3	28.5	5.4	33	139.5	8.8	29.5	6.9
13歳	19	139.2	5.8	28.3	4.5	32	143.0	8.2	32.1	6.4
14歳	21	147.2	8.7	33.5	6.3	16	142.8	6.2	32.0	6.3
15歳	10	148.3	10.5	33.8	8.0	1	140.3	—	40.5	—
16歳	6	149.6	7.5	37.0	7.4	3	151.1	14.9	39.3	12.7

表5 日本人の身長と体重(平成15年厚生労働省国民栄養調査結果より)⁴⁾

年齢	人数	男				女				
		身長 (cm)		体重 (kg)		身長 (cm)		体重 (kg)		
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
9 歳	52	132.9	5.8	29.9	4.7	44	133.4	6.5	30.1	6.2
10歳	60	139.8	6.0	34.9	7.2	48	139.0	6.4	33.4	6.5
11歳	53	143.7	8.0	37.9	6.9	48	144.3	6.8	36.5	7.4
12歳	42	151.3	9.5	45.8	9.7	51	152.0	5.3	43.3	6.7
13歳	43	159.3	8.1	50.9	11.3	46	155.2	4.4	46.3	7.2
14歳	40	162.1	7.8	52.9	10.1	37	156.9	5.5	51.1	9.2
15歳	38	167.7	5.1	58.4	12.0	48	157.1	4.4	50.4	7.8
16歳	43	170.3	6.5	59.2	8.4	16	158.0	4.5	51.6	9.8

表6 カンボジア人のローレル指数と体格についての意識

(%)

自分の体格についての意識	ローレル指数											
	男						女					
	やせすぎ	やせぎみ	標準	太りぎみ	太りすぎ	計	やせすぎ	やせぎみ	標準	太りぎみ	太りすぎ	計
やせている	4.8	2.8	0	0	0	7.6	4.0	7.4	0.7	0	0	12.1
少しやせている	5.7	13.3	4.8	0	0	23.8	6.7	7.4	5.3	0	0	19.4
普通	7.6	30.5	7.6	0	0	45.7	8.7	30.2	11.4	0.7	0.7	51.7
少し太っている	3.8	8.6	4.8	0	0	17.2	0.7	4.7	6.7	0	0	12.1
太っている	1.0	1.9	2.8	0	0	5.7	0.7	0.7	3.3	0	0	4.7
計	22.9	57.1	20.0	0	0	100.0	20.8	50.4	27.4	0.7	0.7	100.0

がやせすぎ、またはやせぎみであった。また、標準は男子の20% (21人/105人)、女子の27% (41人/149人) であった。男子は太りぎみ、または太りすぎが0%に対して、女子は1.4% (2人/149人) いた。しかし、自分の体格についての意識調査では、やせすぎ、またはやせぎみの体型に関わらず、普通と答えた児童が多かった。

考 察

調査を行ったササースダム小学校は児童数1,163人(男子児童632人、女子児童531人)、教員数23名の小学校である。農村地帯にあり、大半は農家である。調査期間の2月～3月は乾季で、井戸や池が枯れ、生活に必要な水を確保することも困難である。また生活のために父親が出稼ぎに出かける家庭も多く、経済的には豊かではない。

調査対象の家族の人数は平均6.87人で、日本の家族の人数の平均2.68人と比較して多かった。

日本の小学校の学区は約2 km以内であるのに対し、シェムリアップ州プク郡内の小学校の区域は約5 km～10 kmである。児童は徒歩または自転車で通学していた。

食糧生産が困難である乾季でのシェムリアップ州プク群内の小学生において1日の食事摂取回数は“3食以上”が61%、“2食”が39%と比較的食事回数も多く、また1日の食事回数に満足している児童も約半数の49%であった。1日の食事で1番摂取量が多いのは昼食で79%と高値を示したが、これはフランス統治時代の西欧の食習慣の影響を受けているのではないかと考えられる。

食品群別の摂取頻度について豚や鶏などの食肉類を食べる頻度は魚介類と比較すると低かった。魚介類を食べる頻度が多い理由は、近くの池や川で淡水魚が獲れるからである。しかし、乾季になると池や川の水量が減少し、漁獲量も少なく、小魚を家族みんなで分け合って食べているため一度に食べる量は少ない。乳製品の摂取頻度が低い要因としては、プク群のササースダムの農村地帯では乳牛を飼育しておらず、そのため乳類の摂食習慣があまりない。また乳製品の販売も少ないことによると考えられる。野菜を食べる頻度は高いが、野菜類を栽培している家庭は少なく、近くの林などで取った木の葉や食用

の雑草などをスープに入れて食べている程度の家庭もあった。このため食物繊維やビタミン類の摂取面を考慮すると野菜栽培の農業技術指導などを行うことが多くの野菜摂取に有効と考えられる。

アンケート調査前日の昼食の摂取は93%、朝食79%であった。調査前日の食事について、児童のほとんどの家庭では稲作を行っており、炭水化物としてのエネルギー源である米食の摂取率は高い。主食であるご飯と魚を除く副食は摂食率が全般的に低かった。その要因は自給自足の生活と貧しい経済状況が反映されていると考えられる。児童が健康に発育するためにはバランスの摂れた栄養摂取は重要であり、食肉類、乳製品などを食べる食習慣の環境を増やすことが必要である。

生活活動についてのアンケート調査では“運動をした”は14%と少なかったが、“仕事をした”が97%と多く、児童は農業や家庭内の手伝いをよくしている。また、“遊んだ”が88%でほとんどの児童が屋外で遊んでいる。

体調について“虫歯がある”が57%と半数以上であった。小学校では歯磨きをする習慣がないため虫歯の児童が多かった。今後、栄養教育だけでなく、歯科衛生に関する教育も必要であると考えられる。

児童の食べている食品群の摂食状況および摂食量を把握するために、WFP支援による朝食の学校給食と家庭の朝食を比較検討した。その結果、学校給食のない日に家庭の朝食を食べる児童は“毎日食べる”が36%と低かった。また、家庭の朝食と学校給食の摂食量には大きな差は見られなかった。給食は毎日同じメニュー(ニシンの缶詰スープ、緑豆混ぜご飯)であり、1人分は米(100g)、緑豆(40g)、ニシンの大豆油缶詰(20g)、塩(3g)およびパーム油(9g)で約650kcalとエネルギー換算され、たんぱく質、脂質、炭水化物がバランスよく摂取できるようになっている。しかし、児童の食器のサイズは揃っておらず、また年齢差もあり、給食の摂取量は児童によって異なっていた。しかし、給食がない日は朝食を時々食べる児童が多いこと、また、その量や味について、ほとんどの児童が満足していることからWFP支援の給食は重要であると考えられる。WFPの学校給食プログラムは3年間で終了する予定で、給食の必要性

を感じている児童は86%と多い。このことから、WFPの学校給食支援終了後も児童が十分な食事を摂れるよう継続的な学校給食提供の施策が必要である。

身体測定の結果では、カンボジア人と同じ年齢の日本人の身長と体重を比較したところ、男女ともにササースダム小学校の児童の方が身長は低く、体重は軽かった。身長と体重から算出したローレル指数の結果から、男子の80%、女子の71%がやせており、栄養不足が示唆された。また、自分の体格についての意識調査では、やせているにも関わらず、“普通”と答えた児童が多かった。このことは児童の体格に対する意識を改善する必要性を示している。

カンボジアの食料事情は、都市部のシェムリアップ市内の市場には様々な種類の肉類、魚介類、野菜および果物類があり、食材は豊富に揃っていた。しかし、本調査の結果から、農村部では米や魚以外の食料が充分ではない実態が明らかとなった。児童が健康的に発育するためにはバランスの取れた栄養摂取は非常に重要であり、一日の規則正しい食生活が可能となるような施策の必要性が示唆された。また、その施策に含まれる保健教育を通して人々が健康の大切さを学ぶことが、カンボジアの農村地帯の家庭における食生活の改善に結びつくと思われる。

要 約

カンボジアの農村地帯にある小学校の児童の日常における食生活と健康状態について調査(2006年2月～3月)を行った。調査対象は9歳～16歳の小学生274人(男子119人、女子155人)である。その結果は以下の通りである。

(1) 1日の食事摂取回数は“3食以上”が61%、“2食”

であった。また、食品群別の調査では、食肉類、乳製品などのたんぱく質食品の摂取率が低かった。

(2) 身長と体重より算出したローレル指数の結果から、男子の80%、女子の71%がやせていた。同年齢の日本人の身長および体重と比較すると、男女ともカンボジアの農村地帯の小学生の方が低値であった。また、自分の体格についての意識調査では、やせているにも関わらず、“普通”と答えた児童が多かった。

これらの結果からカンボジアの農村地帯の児童の栄養不足が示唆された。児童の発育・発達のためには、バランスの取れた栄養摂取が重要な課題であり、そのための施策が必要であることが明らかとなった。

謝 辞

本調査は広島県カンボジア復興支援プロジェクトおよび独立行政法人国際協力機構(JICA)の協力により遂行できました。ここに感謝の意を表します。また、本調査にご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

文 献

- 1) 吉崎基弥, 青山温子, 永井真理, 小林明子: カンボジアにおける身体障害者支援の現状と課題, 国際保健医療, **21**, 43～51 (2006)
- 2) 池田昌代, 加藤みゆき, 長野宏子, 阿久澤さゆり, 大森正司: カンボジアにおける発酵米麺の製造方法と食し方について, 日本家政学会誌, **56**, 827～833 (2005)
- 3) 森枝卓士, 世界の食文化4 ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマー, 社団法人農山漁村文化協会 (2005)
- 4) 厚生労働省健康・栄養情報研究会: 国民栄養の現状, 平成15年厚生労働国民栄養調査結果, 第一出版 (2006)